



ル名  
2083

松花堂

東都

東都

東叟堂藏板



六月廿五日...  
山北松花堂...  
乃記...  
...  
...  
...  
...







一 寅水戌寅乃 孫世傳  
 和尙少いもたふいし一 けい  
 うまうしとくもくしきまてく  
 六、日尔尔尔安しつ  
 七、日  
 多尔おま言のあふりし  
 ちりしつみ終るまで

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

晴よりく和る頰流るる  
去日晴逸花正開鞋音楚  
地峯徘徊曉風吹入云々  
三笠山願富一堆

午後よりしるし  
ほのぼの雲此衣着す  
くくくくくくくくくくく

又さるの村に流るる  
竹丸

春の山形さげくちる  
もよみの花のちる音  
下り雲のけしきふく和る頰  
くくく歌

冷杖音を安、頰赴有歌



~~~~~  
和風

浮雲流水身不立波を風以  
高き日と、胡蝶思ひの歌  
又花門中へ入又出

あやうき花ふゆらゆら

花ふらぐ

信長もちりし

世をわちあつた

一回

西の空にれくあゝあゝ

よもやまつゝいあゝあゝ

九〇

片々ねえあゝあゝあゝ在原さ

残りさ

遊のねもふあゝあゝあゝ

4  
わろくくさるるや芳成跡也

和尙

晨出南都河至原傳教鳥道  
業重痕旁人相傳道次亦  
疲杖互平月旅猿  
肉山不居傳與るる羽のみは

沙弥多々く永久年中いさ  
竹よりく永久るるあつけ再山  
成け竟恵と人さきいあはる  
法師乃いさるれ灌頂堂あり  
西壇東西よりさるくいさる  
いさるいさるいさるいさる  
いさるいさるいさるいさる





途踏者行、雖陰嶺、其苦  
日厚、海之岩、之端、山之半、  
臨、月、花、乳、移、駒、一、樹、枝、

新、  
か、に、ま、く、一、力、を、花、に、お、け、

し、ゆ、ふ、ふ、さ、さ、さ、し、も、竹、  
の、ぬ、こ、木、乃、站、枝、

又、清、法、の、つ、ら、い、ふ、

ま、子、根、非、の、ま、ま、し、れ、し、は、

い、た、ま、ま、さ、く、し、ま、の、さ、も、あ、

音、の、ら、ま、し、ほ、ま、ま、し、あ、あ、  
ほ、く、お、あ、

之、言、海、瀬、ま、青、草、凡、如、枝、

そ、凡、外、松、町、食、因、縁、余、を、法、

観音のまゝに意りり賜は

るも観音のまゝに法楽しを

るも観音のまゝに法楽しを

るも観音のまゝに法楽しを

十日

泊瀬のまゝに女信文に掛る

るも観音のまゝに法楽しを

おろろ高野のまゝに法楽しを  
下るる高野のまゝに法楽しを  
下るる高野のまゝに法楽しを

下るる高野のまゝに法楽しを

下るる高野のまゝに法楽しを

下るる高野のまゝに法楽しを

下るる高野のまゝに法楽しを

初如三月身終生藏招電可也  
空遊未認我恨心凡  
千つゝ  
於心可もねう事可也  
よりのやまに在ふつれ  
さつゝれつゝそあれ  
讀王堂多て和為

身多つゝ心 成れん  
こものせよ乃露る  
物多王の光也  
西せしるし流るふのほつむ  
とれつゝ空の法道あつむ  
つゝ子乃ちよつゝあつむ  
らな物丈流詳こ有

や又勢るも眼も又おのこ  
似唐のしき、面月廿身  
紫にあは去夜  
はくろ  
沙衣柳の洲をたも  
はくろれもく  
まふもきれも  
かたも

二仏と四回読誦、二名の神と  
常、まふ家、義主、権現、縁孫  
勅、樹、花、柳、子、権、遊  
はくろ  
より、の、山、柳、を、まふ、ア、夜  
まふ、引、果、ふ、柳、の、花、を、ま  
はくろ

又若くは  
年よりせし響のこころの  
花を秋の山路ふ  
きくくくわくわく

和鳥

靈山ふ下遠人家か古  
き老梅樹木暮の家

萬葉風白雲一枝花  
十二日

後龍湖天竺子河原  
水者城者一子  
伊修ふ信流者  
御廟の善表と願ふかよ  
つらねひ

靈地苗蹤たゞ皇孫孫  
江段商童暗申し由也  
正妙の始るるを本経法  
所をくくくくくくく  
か〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
法製をくくくくく

十二日

羊の野をくくく城を  
くくくくくくくくく  
くくくくくくくくく  
か〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
花のくくくくく  
糸尚碩

茅野山風渡葛城白梅  
暎白雲横大和号詠大和園  
愧余忘形忘心清

廿二夜當麻守日とあるまぬ

十字

中野娘の往生乃忘心  
以並此丘居了らむは

らん 廿二日  
あやしくはけくは  
死を語らんお  
うりしれふる

三月廿二日  
や  
勢方六条雨維徳作



乃依

こころの道

丸はのち孔もくた人の  
いしうらふかみそ  
ひきぬいふまきとや  
高麻をちくね抱かるとや  
ぬすまじち溜溜すゝおろとや

予武しるの行飛脚也

しつかやうの孔くゆ依せ  
きりぬいふまきの依懸と  
かのしるのたきとせぬ  
むしーのまきとあはふ  
いふまきとて知る  
孫受全主師予武しる

拓提与现技業丁  
復分於在梅大物  
吉道場

此  
多  
上  
中

中刻

申刻  
下  
和  
丁

孤雁一書知存書  
張全志馬行淮南  
親口若得南山書  
不隨山勢上村山

其山花正二月增難  
多之、胡也、方、後、也  
來風京世報  
年

寬政五年癸丑正月

井清風影

